

提案のテーマ

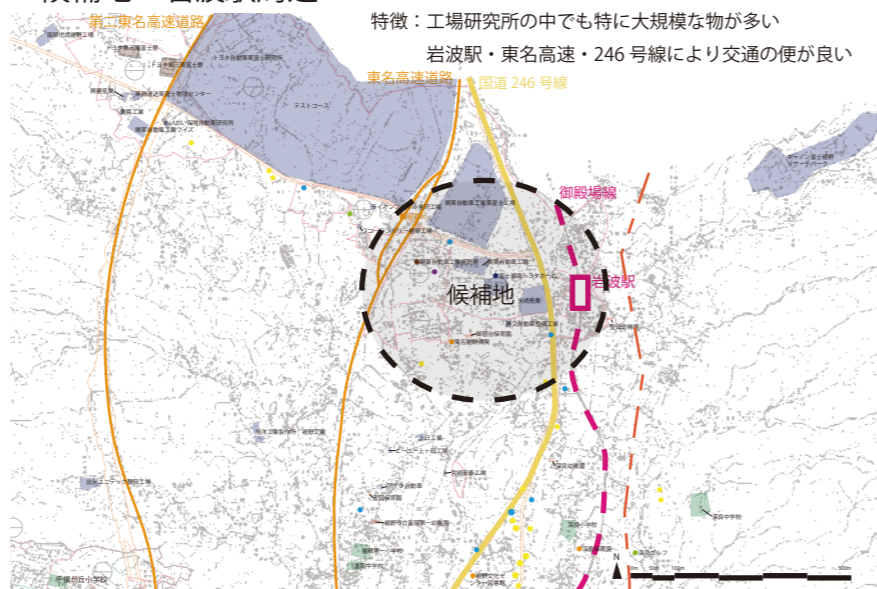
「活力の途絶えないまち」 ～絶えず変化する住み続けたいまち～

- 人々の活動が活発である
 - 電力絶えず生み出され活用される
 - 常に更新され最先端である
- } このような未来のまち＝スマートシティを提案する。

スマートシティとは

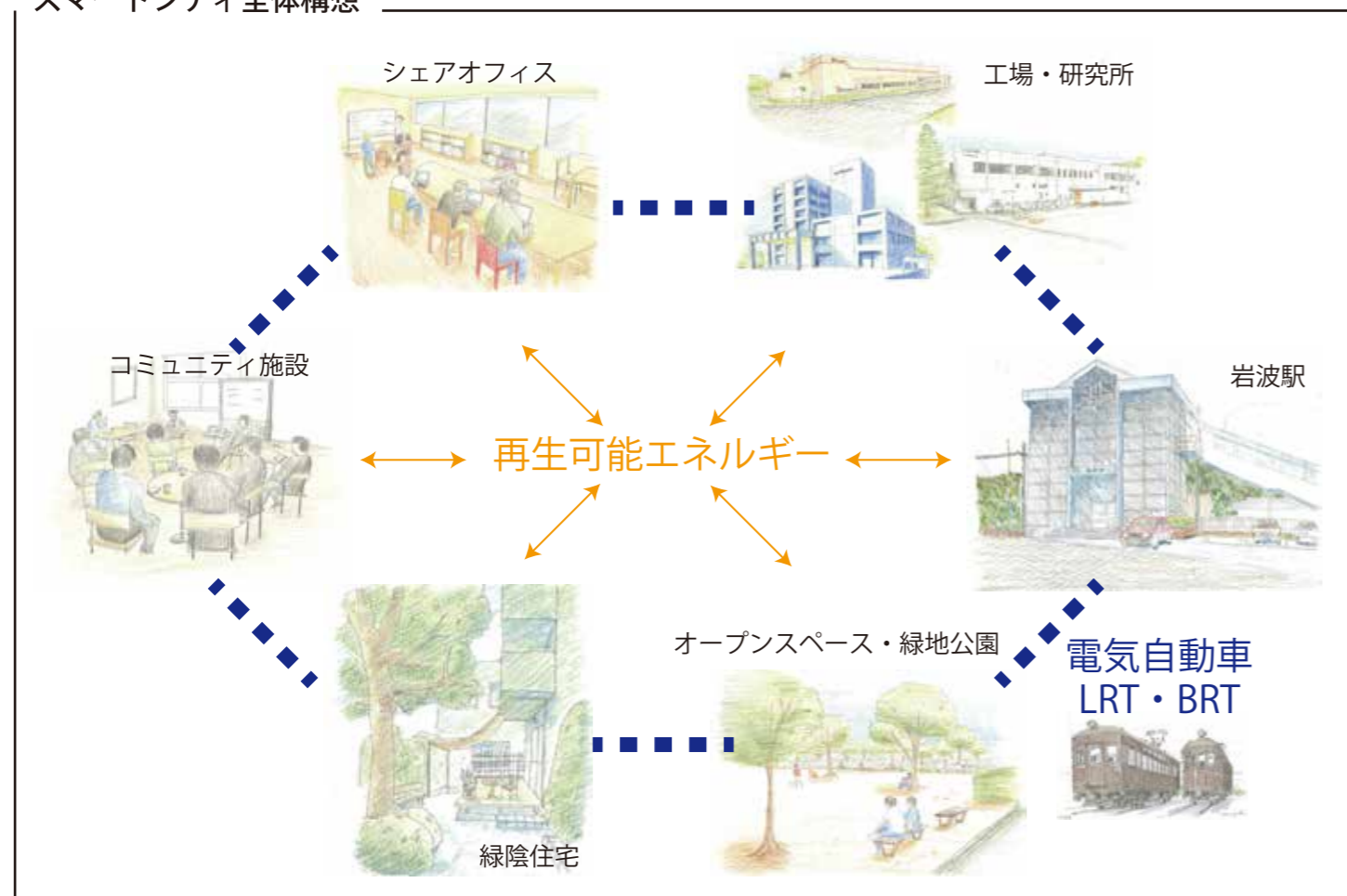
ITや環境技術などの先端技術を駆使して街全体の電力の有効利用を図ることで、省資源化を徹底した環境配慮型都市。再生可能エネルギーの効率的な利用を可能にするスマートグリッド、電気自動車の充電システム整備に基づく交通システム、蓄電池や省エネ家電などによる都市システムなどを総合的に組み合わせた街。世界各地で実証実験が始まっており、日本でも複数の都市で官民一体での実証実験が進められている。

候補地：岩波駅周辺



候補地として岩波駅周辺を想定。

スマートシティ全体構想



① 新しい街と工場研究所の関係

～裾野市で働く人にとって何が必要か～



・シェアオフィス

新しい街は各事業所の社宅ではないので、異なる事業所で働く人々が一緒に生活し、そこでは異なる会社で働く人同士の交流が生まれる。シェアオフィスは家庭、会社に続く第3の居場所「サードプレイス」としての役割を果たし、気分転換しながらの仕事場になったり、企業内起業を目指す若い研究者達の情報交換の場になったりする。また、休日や夜間など人の少ない場合、照明・空調などをシェアすることで節電にも繋がる。

・クラウドとウェアラブルコンピューターの導入

全ての住民がアクセス可能なクラウドを作り、一人一つウェアラブルコンピューターを持つ事で様々な情報をいつでもどこにでも確認可能。交通状況を共有する事で渋滞を回避する、親が仕事に子供居場所や体調を把握できるなど、街の中の現状をリアルタイムで手に入れることができる。

② 生活とコミュニティ

～緑に囲まれた快適な生活のために～



・緑陰住宅

住宅の材料には地元の木材を活用し、木のぬくもりのある住宅とする。周辺に多くの緑を配置し、できるだけ人工的な冷暖房に頼らない風通しのいい住環境を作る。また、生活を補助するロボットを各家庭に配置することで、子供からお年寄りまで安心快適な生活をサポート。

・コミュニティスペース

社宅にある特殊な人間関係と離れて健全なコミュニティを作るためのコミュニティ活動の場を提供する。そこでは住民による主体的なまちづくりが行えるようなワークショップやイベント活動を積極的にプロデュースする。

・子供のためのワークショップやインタープリテーション

子供のためのインタープリテーションプログラムを積極的に実施する。子供たちにできるだけ裾野や富士山、箱根の魅力を伝え、この街に愛着を持ってもらい、住み続けたいというイメージを持ってもらう。子供達に遊びや学習を指導するのは地元の年寄りや若いインタープリターに積極的に参加してもらう。

③ 交通ネットワークとパブリックスペース

～移動網と公共空間の充実～



・すべてを繋ぐ LRT・BRT

岩波駅を拠点に工場研究所、公共空間、住宅の全てを繋ぐ。今後自動運転システムや無人配達システム、無人ゴミ収集システムなどが実現するために道路や信号などのシステムに新しい情報システムを導入し、ロボットなどが使いやすい段差が少なく整った道路環境を作る。これはすなわち老人や車椅子などが使いやすい安全なまちであることも意味する。

・誰でもいつでも使える電気自動車

電気自動車のカーシェアリングを行う。将来的には、道路面にソーラーパネルを仕込み発電、路面から直接充電を行う「非接触型充電」の機能を利用して、電動自転車や電気自動車に電力を供給する。

・緑豊かなオープンスペース

平日は昼休みの憩いの場、子供たちの遊び場に。休日には各種イベントの会場として利用される。「行政が作って行政が管理するもの」という概念を刷新し、住民が自由に使えるが自分たちで管理するという意識を持ったマネジメントをする。